

花ガイド



文化公園の植物

“名前を知っているとその植物が
目に飛び込んでくる”

春、博物館の周りではミヤマウグイスカグラ、ウリカエデ、カスマグサ、マツバウンラン、ナツハゼ、ミヤマガマズミ、ネジバナなどの花が顔をのぞかせます。夏には遊歩道沿いにギンラン、エゴノキ、ハンショウヅル、ネジキ、レンゲツツジ、イチヤクソウ、ホツツジ。秋にはオケラ、ツルリンドウ、ヒメジソなどの花が咲き目を楽しませてくれます。

浜津ヶ池ではウキヤガラ、ハッカ、ネムノキやオオアカバナが見えます。ネムノキでは『象潟や雨に西施がねぶの花』（松尾芭蕉）に詠まれた花の美しさを学びます。

「名前を知っているとその植物が目飛び込んでくる。名前を知らないとその前を通り過ぎてしまう」（講師の清水照雄先生）をモットーに観察を続けていると、手の触感やにおいとともにその植物が目飛び込んでくるようになります。

キキョウやベニバナイチヤクソウなど以前は見られたがここ数年見られない花もあります。キキョウは環境省では絶滅危惧Ⅱ類に、長野県では準絶滅危惧種に指定されています。

北信濃ふるさとの森文化公園 植物マップ



文化公園の植物の不思議

ふるさとの森文化公園にはウメガサソウ、ホツツジ、レンゲツツジ、ツルアリドオシ、ユウスゲなどがあります。これらは、高社山、斑尾山、志賀高原など周辺の山々に生息していて、標高約800m以上で見られます。標高約440mの文化公園でなぜ見られるのか、不思議です。

文化公園がある長丘丘陵の気温は飯山市、中野市の中心部と比べ年平均で約2.5℃低いのです。一般に標高が100m高くなると気温が約0.6℃下がるので、2.5℃低いことは、文化公園より約400m標高が高い地点の気温と同じことになりま

す。そうした訳で周りの山々の高い所に生える植物が文化公園のある長丘丘陵で見ることができると考えられます。

中野や飯山に比べ気温が低いのは、気候や地形の影響が考えられます。長丘丘陵は長野盆地と飯山盆地の境にあり、すぐわきを千曲川が流れています。東の高社山、北西の斑尾山に挟まれています。このため長丘丘陵は季節風などが吹き抜ける通り道となるので気温が低いと考えられます。

文化公園の樹木

文化公園はコナラ林やアカマツ林が多く、その間にクヌギやケヤキ、クリなどの高木が混じり、エゴノキ、ガマズミ、オクチョ

ウジザクラ、イボタノキ、ムラサキシキブなどの重高木や低木があります。そして国蝶のオオムラサキ、ゴマダラチョウ、シジミチョウの仲間が姿を見せます。文化公園のある長丘丘陵は多くのチョウが集います。

私たちが文化公園の植物観察を通して得たものを多くの方々と共有できればと願い、花ガイドを作製しました。通り過ぎてしまえば気づきませんが、ちょっと立ち止まって見れば新しい気づきと感動が待っています。植物はその場所へ出かけ、その場所で見ることが大切です。皆でやさしく見守っていきましょう。

(2025年2月 中野市立博物館植物観察グループ)

中野市熱意応援事業の補助金を活用しています